

平成28年度指導者講習会アンケート（県中支部）

1) 講演、「野球と思うな、人生と思え」原田教育研究所（原田 隆史 氏）

- ・人を育てていく立場の中で、「自分を変えれば相手も変わる」「主体変容」という言葉にとっても感銘を受けた。パフォーマンス＝何を×どんな心で という式はととても共感した。同じ事をやっても出る成果、結果が人によって違うのは「個人差」という言葉ではおさまらないと思っていたので、とても納得した。
- ・目標と計画については実践してきたつもりですが、まだまだ、足りないことがあることに気付きました。野球以外でも利用したいと思います。
- ・野球に限らず、どのような考え方、生き方が人を向上させるか、具体的な事例を含め、大変興味深く明日から早速、実践してみたい内容でした。
- ・部活動、さらには生徒指導などで、大変参考になりました。
- ・生徒指導をもう一度、深く考えさせられる講演であった。指導者自身の本気が生徒にも伝わる。学校生活にも部活動にも常に本気で生徒と接していかなければならないと気付かされた。目標と目的をはっきりさせ、目的を達成できるよう努力していきたい。
- ・もっと話を聞いてみたいと思いました。生徒を深く理解する方法について一番興味を持ってました。
- ・習慣形成の大切さを改めて感じました。がんばって日本一ではなく、日本一になると決めて優先順位を明確にして、組織を作っていこうと思いました。
- ・子どもの性格や気質、メンタルを変えてあげたいと思ったとき、なかなかうまくいかなければダメな理由をその子どもに向けてしまいそうになる。そこに逃げずに子どもを変容させてあげられる自分に変容していきたい。
- ・「原田メソッド」を知ることができて大変良かった。
- ・野球指導は人間教育に直接関係する。生き方、態度、姿勢が個人を鍛えチーム力が上がる。日頃、子どもたちと接するとき心のコップを上に向けられる工夫をすることが大事であることが分かった。
- ・「コップの向きを上に向ける」という言葉にすれば簡単なことだが、なかなか難しいと感じた。しかし、それを実行させるためのさまざまなヒントをいただき、とても参考になった。指導者本人の体験も非常に大切なのだと再度確認できる内容だった。

2) 講演、「夢が自分を育てる」（小野 巧 氏）

- ・数式表示（理解しやすい表現）がすごくうちのチームに取っては役に立つと思った。「指導のしかた」の工夫を教えてもらえるのは苦手の自分にとって1番うれしい。改善点は見つけられるが、改善方法をもっと勉強しないと、と改めて思った。
- ・さまざまな方法について考えられていたことが、分かりました。常識にとらわれず、良い方法を見つけていきたいと思いました。
- ・普段の指導で、よくありそうな悩みに、解決の糸口を与えてくれるような講演でした。

生徒の接し方や練習の仕方を工夫していこうと思いました。

- ・県をあげての強化事業があるということに驚くと同時に福島県でも小・中・高の連絡を強化していく必要があると改めて感じました。

- ・秋田県の高校野球についてや県強化プロジェクトの話について具体的にお話しいただき、大変勉強になりました。数式表示は野球だけでなく、生徒指導やその他いろいろ活用することができますので、大いに生かしていきたいです。

- ・秋田県のためにいろいろな工夫をされ、さきをよむちからがあり、ほんとうにすごいお方であると思った。

- ・甲子園に何度出場している監督はどのような視点で、何を考えているのか。とても気になることです。この点に触れるだけでも大変有意義な時間でした。

- ・いつまでも人に笑われるくらいの夢を抱いて生きるべきだと感じた。秋田高校での環境から「OB会も試合の勝敗より、選手の人生を応援している」というお話があり、これが高校球児を取り巻く環境としてあるべき形だと感じた。

- ・秋田県の強化の取り組みについて、行政との関わりを深め知ることができ勉強になった。

- ・目標設定がとても大事である。日頃の考え方で行動が変わってきてしまうことや自分の日常生活で意識が低くなっていることに気付かされました。将来を描く力や取り組む力を育てられるような指導ができるようにしていきたいと考えさせられました。

- ・分かりやすく、楽しめるトレーニングを行うこと。目標を置くことの大切さ。

- ・豊富な体験に基づき「夢を持つこと」の大切さを述べられており、とても参考になった。野球というスポーツの発展のため、行政の果たす役割が、いかに大切であるかを学ばせていただき、広い視野で野球に接したいと感じる講演であった。

3) 講演、「選球眼を鍛える」(石垣 尚男 氏)

- ・うちの生徒に必要な「手段」を知ることができた。ストライクボールの見分け、粘り強さ、ボールを選ぶということの大切さを子どもたちに改めて伝えていきたい。

- ・大学時代動体視力の研究で先行文献などで石垣先生にはお世話になった。新たな研究成果を発表していただいて大変参考になった。「眼」について、もう一度考え直したいと思う。

- ・2年前に本を読ませていただきました。眼力の大切さを再確認できたと思っています。

- ・眼力に特化して、野球のパフォーマンスを上げるためにはということで、具体的な方法を分かりやすく紹介していただき、すぐに実践したいと思います。

- ・親指フォーカスやナンバータッチトレーニングは取り入れてみたいと思います。

- ・今まで、生徒を指導する上で、見えるところばかりに目が行ってしまっていた。見る力がいかに大切か感じる事ができたので、すぐに取り入れてみたい。

- ・これまでもビジョントレーニングを導入した経験はあったが、成果を測れる機会・方法が無く継続するに至っていなかった。石垣先生のお話にもありましたように、最終的には「信じること」「継続すること」が先につながるものであるため、もう一度勉強し

取り入れていきたい。

・眼の大切さは分かっているけど正直、今まで根拠のないものだった。具体的な実験結果によるデータを見て、改めて重要性が理解できた。トレーニング方法も簡単ですぐに実践しやすい物で、とても参考になった。

・選球眼についての講演だったので、来年度は眼から入った情報をどうパフォーマンスにつなげていくのが効果的なのか知りたいと思った。例、アジリティなどの神経系を鍛えるために。

・本を読んでいたのでも、話をよく理解することができた。チームに導入したい。

・選球眼をはじめ、日頃、見ることの大切さを生徒に解いていましたが、その高め方、トレーニングの仕方を全く分かっていませんでした。そのことを思い知らささせていただきありがとうございます。特別なことではなく、いつもの練習をちょっと工夫することで、眼の力を高めることができる。そのためのアイデアを教えていただき、大変勉強になりました。

・日頃、考えなかった選球眼、非常に興味を持って話を聞きました。是非取り入れてみたい練習内容も多くあり自分のチームでも眼のトレーニングを明日からでもやってみたいと思いました。参考になり勉強になりました。

・目の大事さを改めて知った。具体的な数字や練習の仕方を聞いてびっくりしたことがたくさんあった。すぐに練習に生かせるものが多いので、早速ためてみたい。

・科学的なデータをもとに、目が与える「野球のパフォーマンス」への影響に関して、分かりやすく教えていただきました。また、私たちにもできる簡単なトレーニングについても紹介していただき、とても参考になりました。今後は、いろいろとアレンジしながら、眼の働きを向上させる方法を考えていきたいと思いました。ありがとうございます。

4) 甲子園塾報告 (小野高校野球部監督 皆川 俊哉 先生)

・若い先生方の情熱が伝わってくる内容で、私たちも元気をもらうことができました。「初心忘るべからず」です。

・お疲れ様でした。今後の野球の指導に生かして下さい。

・30分では短かったかと察しますが、丁寧に伝達(報告)いただきありがとうございました。

・レジュメがしっかりしていて良かった。

・指導の原点を改めて考えさせられました。

・生徒・保護者とのやりとりについて全国的に大きな課題になっている様子が分かった。顧問との間に随分距離あるいは溝ができていることに悩むケースが多い。

・競技が他チーム生涯型チームの2チーム制を高野連や塾長の山下先生が、良しとすることに疑問を感じた。それだけ、変化が求められるということに自分が対応する姿勢が欠けているということなのかと考えさせられました。

・監督が目指すチーム、子どもが目指すチームを突きつめていくことが大事なのではと感じた。

- ・県外の指導者の方々の考え方を知ることができ、本校でも実践できること。置き換えて考えることができることが多く、是非スタッフで共有したいと思います。
- ・入力したことを出力できると福島県の全体のレベルアップにつながると思います。
- ・育成者としての視点、大事だと思った。これからの時代の指導を考えさせる報告だったと思います。例年の内容とは違って良かったと思います。
- ・「指導者の押しつけではなく、生徒たちと一緒に夢を追いかける」この言葉が耳に残った。

5) 甲子園出場報告（聖光学院高校野球部監督 齊藤 智也 先生）

- ・プレーよりも出で立ち、全力疾走、攻守交代の重要性、スタンドの雰囲気、弱者への応援、ワンサイドゲームでの同情がスタンドの雰囲気を変える。甲子園のファンは熱狂的なファン以外は気分次第。心引かれた方に集まる。スタンドのファンをどう味方に付けるかというのが大切。
- ・甲子園で試合をする準備を心がける。攻守交代を迅速に行う練習は大切だと改めて思った。
- ・野球以前に人として大事なことがある。それを子どもたちに指導していければと思う。攻守交代を徹底していきたい。
- ・甲子園での価値観、勝敗に対する考え方などとても勉強になった。
- ・新聞紙上などでは分からないチーム事情について一端を伺うことができた。選手の心情を把握し、コントロールする手腕、甲子園の独特の雰囲気への対応力など経験できないことを学ぶことができた。
- ・大変引き込まれ、齊藤先生の思慮深さがよく伝わるご報告でした。
- ・実践的な話で、限られた時間の中で密度の濃い話でした。仮に次年度もこういう機会（聖光が甲子園に行ったら）事前に質問を送り答えを聞いてみたい。
- ・今、指導している中学生に対して何を教えなければならないのか、大きなヒントをいただいたと感じております。短い時間でしたが、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・上位大会で戦うために力や経験の話など大変参考になりました。
- ・甲子園という場所の厳しさ、そこで、得られるものの大きさ、また、齊藤先生の経験のすごさがよく分かった。
- ・甲子園でしか経験できない貴重なお話をしていただき、大変参考になりました。当たり前前のことですが、野球はいろいろな要素により勝敗が決定していくこと、再度確認させていただきました。

6) メディカルサポートチーム活動報告（今野 裕樹 氏）

- ・福島県全体の生徒の様子が分かりとても良かったと思う。よくあるけがについて、未然に防止するための簡単なマニュアルなどがあると良いと感じました。
- ・脳しんとうの対応の仕方については、早急に高野連でもマニュアル化していくことが

必要ではないかと感じた。

- ・最近、ケガをする生徒が増えている中、ケアをする場面が多くあるので、毎年とても参考になっています。

- ・メディカルサポートの今年度の実施状況と県内の選手の現状を理解することができた。

- ・大会中だけでなく、普段の練習時から参考になる内容であった。今回のように活動報告にとどまらず、医学的な話をどんどんして欲しい。

- ・日常的な身体のケア（強化）などについて改善の必要を感じることができた。体幹（インナーマッスル）が弱いこと、股関節、肩甲骨周辺が硬いなど要対応。AED使用の研修会も年1回程度あれば良い。

- ・今年度のメディカルサポート講習会でもチェックを要する選手が治療を受けさせていただき、とても有意義な講習会だと感じた。

- ・脳震盪の対応など指導者として知っておかなければならないことをこれから勉強していきたい。

- ・各大会でお世話になっており、大変ありがたく感じております。脳震盪（セカンドインパクト症候群）の症状など、指導者としてもしっかりと認識をして、事故があった際には対応できるようにしたいと思います。

- ・シーズンオフの活動だけで十分なのでは。必要性をあまり感じない活動報告だと思います。

- ・脳震盪の対応について日本は、海外よりも遅れているといわれている。こういったケガの対処に関する指導者を対象とした講習会（実技含む）などは今後大切になってくるのではないかと思う。

7) 情報交換会について

- ・さまざまな先生と交流できた。年配の先生方と多く関わることができ、つながりの幅が大きくなった。このような会がたくさんあって欲しい。

- ・とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

- ・年々参加者が減ってきているのが残念です。

- ・他支部の先生方とお話ができ、大変貴重な機会になりました。

- ・一次会二次会の盛り上がりは良かったと思いますが、二次会は終了時間を設定し、翌日の講習会に手跡の影響が残らないよう配慮していただければと思います。

- ・参加者の数がなかなか増えませんが、毎年楽しく参加させていただいております。良い機会だと思いますので、是非今後もあって欲しいです。

8) 県高野連強化事業（生徒技術講習会・派遣事業・指導者講習会・書籍リレー等）について

- ・各講習会ともに、ためになるお話を聞くことができありがたいです。いつやるかという時期の問題はありますが、今後もよく検討して続けて欲しいです。書籍リレーは是非、Amazon等へのリンクをはってほしいです。

- ・今後もよろしくお願ひします。
- ・若い人々には、どんどん吸収して欲しいと思うので、良い企画だと思う。
- ・ご苦勞様です。
- ・小野先生の話を参考に、全国レベルの野球を観る機会を設定して頂けるとありがたいです。
- ・新しい形になっても良いのではないのでしょうか。例、キャプテンを集めての講習会があっても良いのでは。
- ・本年度の派遣事業に参加させていただきありがとうございました。
- ・甲子園塾の件、本当にお世話になりました。貴重な機会をありがとうございました。

平成28年度指導者講習会アンケート（いわき支部）

1) 「野球と思うな、人生と思え」（原田教育研究所・原田 隆史 氏）

- ・原田先生に直接お話を聞けて、「熱」を感じることができました。「自分が変わる」ことから人が変容していくこと、自分とどう向き合うか考えてみたいと思いました。
- ・野球の指導だけでなく、生活指導でも勉強になりました。
- ・メンタルトレーニングの大切さを痛感しました。
- ・御自身の生徒指導の経験と原田先生の研究を重ねた成果を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。今回のお話と頂いた資料を熟読し、積極的に学校現場で試すこと。私自身のメンタル強化にもつながると考え、私自身も実践してみます。これからの福島の、日本の教育に携わる者として頑張ります。
- ・現場（中学校勤務時）の話が聞けたことが良かった。4大教育を勉強して実践していきたい。
- ・これまでの経験と実践、実績による自身が雰囲気にも現れている方でした。目的・目標を立てることの大切さに気づきました。今までの取り組み方が目的・目標があいまいであったと反省しました。
- ・私はある程度指導され規範意識が根付いた生徒の集団としか関わったことがありません。原田氏のような経験を持っている方は、とにかく厳しく指導しているものだと思っておりました。自分もそういった集団を相手にした場合も同じようにしようと考えているところでしたが、「心のコップを上に向ける」をしっかりと心に留め置きながら生徒に接しようと思いました。
- ・ご自身の経験談や研究してきたことから実践が裏付けるとても説得力のある話でした。日誌や野球ノートも書かせてきましたが、いくらやっても「提出用」の内容で、どんなことを書かせるべきか悩むこともあったので、参考にしたいと感じました。また、目標ばかりを教え、目的を忘れてしまわぬよう頑張りたいです。心に響いた話でした。
- ・目標を持ってやれとは日頃生徒にしていますが、具体的な項目を挙げてシナリオをつくらせることで、より野球に対する取り組みが良くなるというイメージを持つことができました。
- ・自分で定めた目標をもとに努力していることの大切さを再認識した。自分を変えれば相手を変えられるということは、中々難しいとは思いますが、心に置き、日々、生徒と関わられるようにしていきたい。プラスの習慣を自分からうまく身につけ広められるようにしていきたい。
- ・大変面白い講演会でした。是非違う演題でお話を聞きたいです。「心」の教育についてあらためて重要性を認識しました。
- ・野球人である前に、人間であるので、人として自分はどう生きたいのかという長期的な目標を掲げ、その上で野球にどう取り組みたいのかを考えることができる人間を育成していきたい。
- ・指導者としての目標、目的をしっかり持つことや生徒に指導する立場として、自分自身が変わり生徒変容の重要性を理解することができました。コップを上向きにすること、習慣形成することなどを実践していきたいと思いました。

2)「夢が自分を育てる」(小野 巧 氏)

- ・平成8年に秋田県に視察に行ったこと、当時「監督会」の存在を報告したことを思い出しました。年月を重ねてもこれからの野球に夢を持ち、様々な方面からより良いものを求めて取り組んでおられること、自分も考えなければと思いました。
- ・数式表示の表現など、非常に勉強になり、活用していきたいと思いました。
- ・ミーティングの仕方などとても参考になりました。
- ・先生の野球に対する考え方、視点、理念はとても私とも似ている気がして、注意深く夢中で聞いてしまいました。秋田県と福島県では県は違えど、風土は大きく変わらないと私は見えています。加えて教育者としての深みと厚み、熱量を感じ、大変勉強になりました。今回の講演で得たことを明日からの現場で生かしていきます。
- ・野球に対する姿勢、考え方がとても素晴らしかった。理解しやすい表現は生徒へ還元したい。
- ・なぜ35歳までに甲子園で優勝すると言えなかったのか悔いが残るといった言葉が強く印象に残りました。
- ・練習や試合後にその日のミーティングという形をとってする、というのが通例となっていました。しかし、特に反点が多い日などに時間をかけて話をしても、生徒は全て覚えているわけではありませんでした。そういった日が3日も続けばなおさらです。試合前・練習前のミーティング、重要なことは個人へ向けて話すなど生徒との関わり方を参考にさせて頂こうと思います。
- ・個人的には具体的に取り組んだこと、生徒が変わった出来事、ご自身の考えてきた過程、今大切にしている理念など、そういった部分のお話を聞いてみたいと思っていたので、もう少し的を絞ったお話を聞いてみたいです。
- ・小さなきっかけが大きなことを生むという言葉が印象に残りました。自分が少しの違いに気づくことができれば生徒が変わるという意味にもとれると思うので、しっかりと生徒を観察し、アドバイスも工夫していきたいと思いました。
- ・どこの場においても、否定ではなく、今を良くするために何かを考えて前進していける努めることの大切さが良くわかった。
- ・中学校との連携のお話にとっても興味を持ちました。県外校や地区外に集まる傾向が多いと感じるので福島県も何かできることはないかと考えさせられました。
- ・指導者として夢を追い続ける姿勢を忘れず、生徒にも自分の将来を見据えた計画や考え方ができるような指導をしていきたいです。
- ・具体的な指導例や数式表示にすることで、生徒に分かりやすく表現することで、プレーや考え方に結びつくと感じました。また、なぜできないではなく、どうすれば勝てるのかを考えることが大事だと思いました。

3)「選球眼を鍛える」(石垣 尚男 氏)

- ・見る・見えることを考え、生徒がどう見えているかを確認して、選球眼を意識した野球を考えてみたいと思いました。

- ・今まで考えてもみなかった視点だったのでとても参考になりました。
- ・2割5分と3割の違いは“視野”、とにかく目の使い方がとても大切だと感じました。同時にシャッターメガネというものを知って、どれだけ口先だけの“集中”だったのかを知りました。機会があれば、ぜひ使ってみたいと思いました。
- ・眼を鍛えることの大切さを痛感しました。眼球の動きのトレーニング、瞬間視と視野を広げるトレーニングを早速行いたいと思います。
- ・野球に関わる医学、身体の科学の分野でいろいろとアプローチしていくことは大変おもしろいと思うので今後ともこのような分野の研究者のお話をお聴きしたい。
- ・身体能力は低くないのにパフォーマンスが著しい悪い生徒を多数見てきました。その1つの解決法、打開策となるのが本講演だったように思います。継続することが第一のトレーニングなので、バリエーションや実施するタイミング、生徒のモチベーションを考慮して取り入れてみたいと感じました。
- ・今まで「眼」に注目してトレーニングに取り組んだことも、トレーニングさせたこともなかったので、どのくらい差が出るものなのか非常に興味深いお話でした。指導者として、広い視野で考え、いろんな角度からアプローチできるよう取り組んでみたいと感じました。
- ・ボールが見えていないために結果がでないのではないかと思う選手はいるのですが、具体的な策を講じずに今まで来てしまったことを反省しました。眼が良くなれば良いプレーができるということが改めて感じました。
- ・眼が鍛えられるということがわかった。見る力に差があることを意識して、継続して鍛錬していきたい。
- ・パフォーマンス向上のために「目」の重要性がわかりました。早速トレーニング等実践したいと思います。
- ・新たな視点から野球を見直す機会となりました。「継続すること」・「信じること」を大切に指導をしていきたいです。
- ・眼の重要性を理解することができた。野球を指導する中で、技術面に意識が行きがちであったが、見ることと打つことをリンクさせて今後指導していきたいです。また、具体的なトレーニング方法なども教えていただきありがとうございました。

4) 甲子園塾報告 (小野高校野球部監督 皆川 俊哉 先生)

- ・指導者としての心構え、課題について考えることができました。大人と生徒の感覚の違いや、目標の設定の仕方、現代の生徒にあった指導の難しさを感じました。
- ・若手の先生が集まり、様々な意見交換ができる場はとても有意義であると感じた。
- ・指導者としてではなく、「育成者」として野球を通して教育できるようにしたいです。
- ・指導するということは、生徒を育成するということ、目指すところをきちんと把握して、自分の考えを押しつけず、視野を広く持って、細やかに対応できるようにしていきたい。
- ・自分の目指すものに生徒を合わせるのか、生徒の目指すもの自分を合わせるのか、なかなか難しい問題だと思いました。野球部のあり方も時代に合わせる必要があるのか。

- ・やはり全国の指導者のお話を聞くと考えること、取り組んでいることにさほど大きな差はなく、自分の考えの再確認ができました。それでも今後、今の時代の子へのアプローチの仕方をもっと考えたいと思いました。
- ・監督の方針、目指す野球は曲げてはいけないものだと考えています。甲子園塾講師の先生がどれだけ見栄やプライドを捨てた指導をしているのかが気になりました。
- ・甲子園塾の報告も数年間実施して、報告内容も前年、過去と重複する部分も多く、工夫が必要だと思います。全国の若い指導者がどんなことに悩んでいるのか、体罰などについてのお話は貴重でした。
- ・刈谷工業高校の話にはとても驚いた。
- ・同年代の皆川先生のお話から、自分も同じようなことを思いました。基本的な教師、監督、指導者の姿、模範的な姿は大変勉強になりました。また体罰に関してのディスカッションの内容が生々しく、とても共感し、改めて深く考えさせられる機会となりました。
- ・いろいろ考えさせられる事例が多く、参考になりました。
- ・高校生と関わる指導者として、どういう姿勢で取り組むべきかを改めて考えさせられました。誰のために誰が何をするのか、よく考えたいと思います。

5) 甲子園出場報告（聖光学院高校野球部監督 斎藤 智也 先生）

- ・福島大会での試合の入り方やチームの状況を考えたチームづくりについてお話をいただき大変勉強になりました。また、甲子園での選手達への戦う前の準備の重要性について具体的に講話をいただきありがとうございました。
- ・甲子園に出場できる確率を具体的な数字で選手達に提示することの重要性を感じた。目前の試合にかいに集中して入っていけるかが大切であると感じた。
- ・一番印象的だったことは、攻守交代のタイム。普段の練習から意識させたい。
- ・甲子園の基準に合わせて指導しなければならないことを確認できました。
- ・原点というものの大切さを再認識できた。
- ・攻守交代をきっちり、スピーディーに行うことはなかなか徹底できない部分がありましたが、メンバー全員でサポートしていくことで、選手を甘やかさずに徹底したいと思いました。野球の力もですが、そういう点でも聖光さんとの差を埋めないといけないと思いました。
- ・甲子園は全力疾走が義務づけられているのは聞いたことがありましたが、“1分15秒”という基準があるのも、福島では模範とされるような聖光でさえ指導されてしまっているのも驚きました。やはり高校野球の原点を大切にしていきたいと思います。
- ・振る舞いによりあの東邦の試合に勝ったというのがとても印象的でした。甲子園練習の時間を振る舞いを正すために全て使うという徹底ができるということも考えさせられるお話でした。
- ・人をひきつける話であった。
- ・確率、実施どれだけ甲子園に行くのが難しいのか。どれほどの自信と覚悟が必要かと思ひられました。また、改めて試合との間、攻守交代の大切さ、時間の厳しさを感じました。ぜひ、自分の学校でも生徒に話して指導していきます。

- ・“流れ”は自分たちに責任があるということが参考になりました。
- ・選抜にかかわる、ゲームの勝ち負け以前の姿勢を考える機会がもてた。野球をすることに関わる色々なことに目を向けることがいかに大事か思い知らされました。

6) メディカルサポートチーム活動報告 (今野 裕樹 氏)

- ・大会中の負傷にも対応していただけることを知り良かった。脳震盪を甘く見ないように気を付けたいと思います。
- ・脳震盪での対応の仕方、特に大会中でもデッドボールの際、対応が分からず救急車を呼ぶことができなかったので今回の講演は大変になりました。
- ・セカンドインパクト症候群など、致命的なものとなる可能性があるので、脳震盪に対する統一見解ははかっていただけるとありがたいと思います。
- ・やはり肩甲骨、股関節等の柔軟性は大切であると感じました。
- ・頭部死球は頻発するので、生徒が大丈夫と言えそのままにしてしまうことが多いが、脳震盪やセカンドインパクトの恐ろしさがわかったので、慎重に対応していきたいと思いました。
- ・メディカル講習会では選手に分かりやすく指導してもらえるので助かっています。脳震盪への対応などきちんとマニュアル作成の上対応してくれていることもわかり、本当にありがたいです。
- ・安全な環境作りを心がけ、危険予知を確認させたいと思います。
- ・野球の練習していく中では生徒の怪我は付きもの。いかに正しいケアをしていくかが大切。
- ・脳震盪への対応の仕方について、現場の人間としてマニュアルを確認しなければならないと感じた。
- ・強化部メディアカル講習会実施によって、選手自身の体を知るきっかけとなっているので、今後も実施していただきたいです。また、脳震盪についても詳しく知ることができ、大変勉強になりました。

7) 情報交換会について

- ・多くの先生とお話しでき、大変有意義な時間を過ごすことができました。
- ・他地区の先生方と交流することができ、大変勉強になりました。
- ・様々な先輩から貴重な経験をさせていただいた。
- ・大変実りある情報交換会でした。
- ・他地区の先生方と野球+αの話ができるので大変ありがたかったです。
- ・県全体の先生方が集まる機会も多くはないので、貴重で有意義な経験でした。
- ・引き続き実施して頂きたいと思います。
- ・普段お話しできない先生方と出会うことができ、様々な指導、考え方、視点を習得できた気がします。参加して、大変有意義な時間を過ごせました。
- ・中学校の先生とも交流できて有意義でした。

8) 県高野連強化部事業について

- ・来年度も指導者講習会よろしくお願いします。毎年、大変勉強になっています。
- ・例年通り、強化部事業の方、よろしくお願いします。
- ・指導者講習会の参加人数が年々減少しているように思います。
- ・指導者講習会で野球のみならず、様々な分野の講師の方々から貴重な話を聞けるので大変ありがたいです。
- ・各種講習会では大変勉強になる企画をありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・プロ経験者との交流を増やしてみても良いのではと思います。野球人口拡大のために何かできることはないか。

平成 28 年度指導者講習会アンケート（会津支部）

1) 講演、「野球と思うな、人生と思え」原田教育研究所（原田 隆史 氏）

- ・ 日誌の使い方を考え直そうと思いました。目的・目標を明確に持たせるため、ミーティングで確認したいと思います。
- ・ 講演の中で、実践できることがたくさんあり、実践することが大切だと思いました。
- ・ 目標と目的の違いなど、できるだけ多くのことを生徒に還元したい。
- ・ これまでの自分は目標は設定していたが目的の設定と浸透は足りていなかった。講演にはすぐに取り入れられそうなことも多くあり、早速実践していきたい。
- ・ 野球の指導の前に教育者としてやるべきことがある。しっかりとしたビジョンを持って指導にあたりたい。
- ・ 生徒指導に関する指導者側の幅広い知識が基本だと感じました。もっと勉強していきたいと強く感じました。
- ・ 改めて思いを書くことの大切さを実感でき、日誌に取り入れたいヒントをたくさん頂いた。目標と目的の方向・距離をしっかり定め、真正面から向き合うことで成果が現れる。そのためにも「主体変容」。自分を高めていきたいと感じた。
- ・ 選手一人一人でアプローチの仕方が違ってくる。日誌も細部までチェックしコメントをしていきたい。
- ・ まず、器を上向きにさせないと指導は蓄積されない。主体変容していくことはクラス運営をはじめ、全ての生徒指導に通じると感じた。
- ・ 体のケガと心のケガ。野球はメンタルがとても大事なので心のケアもしっかり行いたいと感じた。
- ・ 指導の本質を押さえて、生徒のためになるよう自分が力をつけていきたいと思った。
- ・ 心が引き締まる思いでした。毎回、指導法を見つめ直す良い機会になっています。有意義な時間となりました。
- ・ 組織の育成、生徒指導をするにあたって、主体変容は非常に大切だと感じた。社会に通用する人間を育てたい。
- ・ 一生懸命指導することは当然だが、漠然とがんばるだけでは結果は得られない。「決める」ことの重要性を学べた。

2) 講演、「夢が自分を育てる」（小野 巧 氏）

- ・ プレーに近いトレーニングを考えてみたい。
- ・ 「Make your story」を多くの生徒に伝えたい。大変参考になりました。
- ・ 積雪の多い地域での工夫した練習を取り入れたい。
- ・ 「練習前のミーティングこそが大切」という話が印象に残った。繰り返せば大きな修得度の差になると思った。
- ・ 手段と目的を明確にして練習させたいと思いました。

- ・秋田の強化事業を聞くことができ、大変参考になった。県全体としての取り組みの必要性を感じた。
- ・カウント別の打撃成績から打順を決めていくという方法を取り入れてみたいと思った。
- ・やはり勝ち上がっていくには人間力を高めていくことが大事だと感じた。
- ・不等号を使用した数式表示がわかりやすかった。
- ・チームとしての行動に意味を持たせて選手への意識付けを図りたい。自分でこうすると選手自身に決めさせ、事故を高められる人間を育てたい。
- ・様々な考えや発想の豊かさ、野球に対する熱い思いが伝わってきました。
- ・秋田県のお話を聞き、福島県も高校野球の在り方を考えていく必要性があると思いました。

3) 講演、「選球眼を鍛える」(石垣 尚男 氏)

- ・選球眼に対する考え方・視点が非常に衝撃的だった。見ることの重要性・関連性を学ぶことができた。
- ・目で見て判断することの重要性・必要性を改めて実感した。野球未経験者がいるので試してみたい。
- ・実験機器の種類とクオリティの高さに衝撃を受けた。
- ・見る力を見直す良い機会となった。
- ・選球眼が鍛えられるということに驚いた。冬期間グラウンドを使用できないことが多い会津地区でも意欲的に取り組めるトレーニング内容だと思う。
- ・生徒達に今回の動体視力トレーニングを伝えたい。
- ・指導者として、選手を見る幅、指導の幅を広げることができました。
- ・トレーニングメニューの1つとして是非とも取り入れたい内容だった。

4) 甲子園塾報告(小野高校野球部監督 皆川 俊哉 先生)

- ・生徒の目指す目標に合わせるか、指導者の考え方に合わせさせるのか、自分としても考えるきっかけとなった。
- ・若い指導者には非常によい行事だと思います。
- ・固定観念にとらわれることなく、時代の流れを受け入れながら選手と良い関係を築いていきたい。
- ・悩みや苦しみを共有することは大事なことだと思った。
- ・全国の名指導者からの高校野球指導者の在り方を詳しく報告していただき、勉強になりました。
- ・競技型、生涯スポーツ型に部活動を分けるというのは新しい発想で、なかなかできないことだと思った。
- ・野球だけでなく、生活全般を見直し、良い環境を作っていくことが大事だと思った。

5) 甲子園出場報告（聖光学院高校野球部監督 齊藤 智也 先生）

- ・攻守交代の基準など、知識不十分だったことを感じる良い機会となった。
- ・審判ミーティング、攻守交代の練習のお話は大変興味深かった。
- ・慣れは禁物、基本をおろそかにせず、技術よりも大事な部分は時間を割いて徹底させるということは流石だと思った。強さの秘訣を感じ、指導を改善することに役立つ講演だった。
- ・齊藤先生の甲子園でのイメージや考えたことが伝わってきた。
- ・「勝敗はコントロールできないが、自分たちの出で立ちにはコントロールできる。そこに意識を向け取り組ませる。」という考え方が勉強になりました。
- ・準備の大切さを改めて感じました。勝ち続ける中で足下を見つめ直し、進化していることを知ることができた。
- ・勝敗を分けるのは技術ではなく、流れ・入り方・自信など多くの要素が重なっていることを知ることができました。
- ・「勝つ準備」にばかり目がいきがちだが、「負ける覚悟」というお話が印象に残った。泥臭く戦う生徒・チームを育てていきたい。

6) メディカルサポートチーム活動報告（今野 裕樹 氏）

- ・脳しんとうは選手の生命に関わる問題なので、話を聞いて良かった。
- ・柔軟性、体幹が弱い傾向にことが分かり、こうした部分を重点的にトレーニングすべきだと思った。
- ・危険の多い野球だからこそ、知識だけでも身につけておくことが大事だと感じた。
- ・緊急時の対応は非常に重要なので、今後も連携したり、指導者が対応方法を学ぶ機会を積極的につくることは大切だと思いました。
- ・ストレッチやクールダウンをしっかりと行わせることは勿論、脳しんとうについての知識を学ぶことは需要だと思った。
- ・秋の県大会においても選手同士の接触があった。私たちもしっかりとした知識を持っておくべきだと思った。
- ・数値化したデータを生徒に伝え、意識付けを図りたい。
- ・ケガでプレーできないのが一番つらいと思うので、ケアにも十分な意識を払いたいと思った。
- ・ありがとうございました。今回学んだことを十分に反映させていきたいと思います。今後も大会でのサポート、講習会などよろしくお願いします。

7) 情報交換会について

- ・指導方法の情報交換が非常にためになる。なにより交友が広がるのでありがたい。中学の先生など面識がない方もいるのでネームプレートがあると良いと思います。

- ・昨年度より参加者が少なかったように感じた。
- ・諸先輩方の貴重なお話を直接聞くことができたので大変勉強になりました。
- ・若年の私たちには非常に有益である。
- ・多くの中学校の先生方が参加されていると感じた。一方、高校側が少なかったように思う。秋田のように小中高、特に中高の連携を密にしていく必要がある。
- ・若い先生も多く、少し楽な気持ちで参加することができた。

8) 県高野連強化部事業

- ・派遣事業等、若手に勉強の機会があるのでありがたいと感じています。
- ・毎年、企画・準備等ありがとうございます。今年も有意義な講演を聴くことができました。
- ・強化部の先生方のご負担に対し、感謝・御礼しかありません。
- ・どの事業も大変勉強になります。今後も継続して参加したいと思います。
- ・以前、派遣事業に参加させて頂きましたが、機会があればまたお願いしたいと思います。支部の技術講習会で学んだことも、定期的に練習に取り入れることができています。
- ・派遣事業に関しては、二度目、三度目でも行けるようだとありがたいです。
- ・福島県高校野球の成長・発展という大きな視点で行われていると感じております。
- ・書籍リレーはいつも参考になっています。

平成28年度指導者講習会アンケート（集計）県南支部

1)「野球と思うな、人生と思え」について

- ・ご自身の体験とともに具体的な指導法・解決法など勉強させて頂きました。
- ・野球を越えたところでとても勉強になった。自分の行動から見直し、周りがどう変わっていくのか。まずは自分が変わることに全力を注ぎたい。
- ・日誌の活用法を見直すきっかけになりました。
- ・目標や目的を明確かつ具体的にイメージさせ、書き出すことで意識高く練習を行うことが出来ると感じました。生徒たちの中には、明確かつ具体的に考え行動できない生徒もいるため、生徒指導から生徒に物事を考え、行動できるようにすることが大切なのではないかと感じました。私自身も考え、生徒たちと話し合うことでイメージを共有し、今後も努力したいと思いました。貴重な講演を開くことができ、良かったです。ありがとうございました。
- ・生徒一人一人のマネジメントの仕方や、組織（チーム）の育て方まで幅広く話をしてもらったので自チームでも試してみたい。
- ・実体験をもとにしたお話で、たいへん説得力があり、また最新の理論も取り入れてありとても参考になった講演でした。自チームに持ち帰り早速実践していきたいと思います。
- ・生徒指導や実技に関してのスキルアップ方法、または生徒の関わり方のポイントが良くわかり、今後も原田先生の話をお聴いていきたいと思いました。
- ・「主体変容」という言葉が特に心に残った。生徒に変化を求める前にまず、指導者が変わらなければならないということを経験談から感じる事が出来た。
- ・毎日の習慣作りが大切であることを改めて実感した。主体変容を忘れずに生活を自分自身も送っていききたい。
- ・以前から原田先生の著書も拝読させて頂いていたのですが、その時から資料にあったような目標設定用紙はどのようにして完成するのか謎でした。今回の講演を聞いて、原田先生の熱意と信念からそのヒントを得ることができたように思います。
指導する際、私も“描き”を大切にしているのですが、頭の中での描きしかなかったことを今回チーム力をグラフ化して分析する形などを見て考え改めさせて頂きました。
- ・心づくり（メンタルトレーニング）についてとても参考になりました。様々なスポーツで原田メソッドが効果的だと聞き実践してみたいと思います。
- ・話し方がとても面白かった。我々も話術を磨く必要があるなあと感じた。内容も体系化されている具体的なものでとても参考になった。
- ・野球日誌を書かせるにあたり参考となる事が、非常に多く勉強になりました。
- ・選手に自信を持たせ、目標を達成する力（実現力）にとっても感心しました。そして、その教え子たちが継承して結果を残している点にも指導者としてたいへん喜ばしいことであると思いました。
- ・是非、原田式目標設定シートをチームで実践してみたいと思う。心のコップも上向きにするために努力したい。

2)「夢が自分を育てる」について

- ・小野先生から貴重なお話をお伺いさせて頂きました。現役でのことや県の事業として取り組んでこら

れたこと興味深かったです。

- ・秋田の過去から現在の状況を踏まえ今後の同地方（東北）での練習試合への取り組み方を見直すことができました。
- ・秋田県の高校野球が変わってきている陰にはどんなことをしているのかと興味があった。勉強になった。また、甲子園とのつながりの多さに驚いた。
- ・生徒たちの主体的な考え方、行動を引き出すヒントを頂きました。
- ・常に同じ練習を行うのではなく、選手に新鮮さを与える練習、客観性のある練習が大事であると感じました。また、一日の練習のテーマを決め、生徒と共有し練習することで練習の質が高くなるのではないかと感じました。私自身の考え方、見方を柔軟にし、練習について考え指導することが、大切だと感じました。貴重な講演を聞くことができ、良かったです。
- ・チーム作りから学校づくりまで経験豊富な話を聞いて良かった。指導者でありながら選手としてマウンドに立つために努力をしたり、気持ちを忘れずに持ち続ける姿勢に感銘した。
- ・語り口が大変穏やかで、勝負の世界に生きていた方とは一見思えませんでした。内容はとても濃く、管理職の経験をまじえながら、大変興味深く聞くことができました。
- ・秋田県での苦労、公立校での練習の行い方を私立との環境面での違いを受け、今後のやり方、取り組み方を勉強していきたい。環境が良いことだけが良いとは思えなくなった。
- ・生徒のために、秋田県の高校野球の発展のためにという思いがひしひしと伝わってくる講演であった。このような思考を持ち続けていけば必然的に周囲から応援されるチームになっていくのではないと感じた。
- ・小野先生自身が秋田高校で行ってきたチーム強化と秋田県全体の強化を学ぶことができ良かった。
- ・数値化・比較化するという考え方にはとても共感しました。いつも通りく新鮮さという言葉がありましたが、まさに何事もその考え方を持つことが大切だと思いました。自チームの練習や運営についても一度、無駄なものや改善できるものを取り出していきたいと思います。
- ・選手と正面から向き合い、監督の意志を正しく理解しているからこそ輝かしい結果に結びついていると講演を聴いて最も強く感じました。東北地方で強いチームを作られている指導者に共通している雪ハディキャップとっていない所が改めて感じることができました。

3)「選球眼を鍛える」について

- ・技術面等に意識して練習を考え、行ってきましたが、講演を聞き、眼を鍛えることでパフォーマンスが向上することを知り、驚きました。今後の練習に取り入れていきたいと感じました。一人一人の考え方が違うように、見え方にも個人差があるため選手たちの話を聞きながら練習のバリエーション、方法を考えることが大切だと感じました。
- ・動体視力の大切さを改めて感じました。目から入る情報のすごさ、大切さ、そこに重点をおき今後も行っていきたいです。
- ・ビジョントレーニングを取り入れていたが、目標を明確にできずに継続的な練習ができなかった。講演を聞き、「何のためにビジョントレーニングをするのか」が理解できたので、生徒たちに伝え継続的に行っていきたい。
- ・出力系の能力ばかりに気が向かないよう、指導が傾かないような選手との関わり方が大切だと学ぶこ

- とができました。また、実践的なトレーニング等も教えて頂き、早速チームに持ち帰りたいと思います。
- ・違う視点でバッティングをとらえることができた。特にシャッターメガネに興味・関心を持った。科学的見地での講演もとても刺激があり、経験、体験だけで判断する傾向のある我々にとってはとても良いと思えた。
 - ・見る大切さを深く知ることができました。石垣先生の講演は2回目でしたが、今回は野球に特化した内容でしたので、新鮮に拝聴させて頂きました。ナンバータッチや様々な眼力トレーニングを可能な限り取り入れていきたいと思います。
 - ・まさに「目からうろこ」であった。頭の重さは5kg→ボウリングの重さはとてもわかりやすい表現であった。フォーカストレーニングはやっていたが、2人1組はさらに効果大だと思う。

4) 甲子園塾報告について

- ・選手たちが何を目指して練習しているのかを把握して、練習を行うことが大切だと感じました。また、野球の指導に限らず、生徒の心に響く指導を行うことが大切だと感じました。
- ・不祥事について、生徒・指導者もどちらも自負をもって生活しなければならない。顧問が生徒に指導するだけでなく、各支部ごとに不祥事防止のための講演会など開いても良いのではないかと。
- ・自分が正しいと思うこと、当たり前と思っている事、見えている世界が全てではないということを経験に銘じなければならないと痛感しました。
- ・指導者ではなく育成者。粘り強く、我慢強く育てること。改めて考えさせられました。
- ・1つのチームに競技型・生涯スポーツ型に分かれて運営している学校があるという話は興味を抱いた。多種多様な価値観が多くなった時代の流れなのかなと感じた。
- ・地域などによっても共通している課題や異なる事情がありそれらを通して議論し合うことで考えが広がると思います。資料の中身も全体に目を通して自分に生かしたいと思います。世間が求めている部活動の在り方も、間違いなく変わり続けるものだと思います。それらに順応しながら野球を伝えられる指導者になりたいです。
- ・参加してみたいと思いました。
- ・例年と重なる部分は割愛して講演していただき、メリハリがあり良かったと思います。講演した内容だけでなく受講者の方々の意見など具体的に紹介していただき、臨場感が伝わり良かったです。

5) 甲子園出場報告について

- ・試合前の考え、入り方等貴重な話を聞くことができたと感じています。普段の練習から時間を意識して行動することが大切だと感じました。
- ・野球をする姿勢の話が参考になりました。戦術の話も良いのですが人づくりの重要性を再確認した。
- ・攻守交替の遅さを指摘され、東邦戦の前に1分10秒を連続で出せるまで攻守交替のみ練習したというお話が印象に残りました。また甲子園大会中に一度野球から選手を解放したことがかえって良い結果をもたらしたという事実は福島県大会においても当てはまるのではと思いました。
- ・何度も聞かせて頂いて、これだけ甲子園に導いている方にも気付くことがあるのだと感じました。
- ・短い時間の中に毎回様々な情報や考え方を教えて頂き大変有難く思います。
- ・いつもながら話がうまいなあと感心した。技術以外の点にフォーカスしてチームの雰囲気上げてい

く手法は素晴らしいと勉強になった。

- ・自分たちの現状や斉藤先生が感じ取る選手の慢心について日頃からよくミーティングされていることを今回初めて聞く機会になったのですが、勝つということを追求していくにしても、野球の技術や体力の部分のみで上手いいかないことが分かります。甲子園、高校野球には多くの規則等もあり、それに真摯に向き合うことも応援されるチームの要因なのだと思います。
- ・ビッグゲームの前でも原点回帰が大切だということが伝わってきた。起こったことをどのように捉えるのか、選手とのコミュニケーションの取り方が勉強になった。
- ・実際の経験の話、甲子園の恐ろしさを考えさせられた、やはり、その場所とは行くべきチーム、それに値するチームを作って行きたいと思います。
- ・聖光学院さんの強さは、改めて技術力もさることながら人間力なのだということが実感できる講演でした。「襟を正す」という言葉が印象に残りました。

6) メディカルサポートチーム活動報告について

- ・肩、肘だけでなく、多くの選手が腰の痛みがあることから練習後のストレッチ等をしっかりと行うことが大切だと感じました。
- ・先日肘のエコーなど見て頂きました。メディカルサポートの重要性を感じています。生徒一人一人を細かく見てもらえる事が大変良いです。
- ・脳震盪のセカンドインパクト症候群は非常に危険度が高く、一度脳震盪を経験した選手には、その数週間後特に注意しながら練習させる必要があることを学ばせて頂きました。
- ・脳震盪に関する丁寧な説明が大変参考になりました。部活動指導時だけでなく、学校生活の場面でも活用させていきたいと思います。
- ・週末に脳震盪を起こした選手がいたが、適切な対応ができなかった。大事には至らなかったが押さえておかなければならない知識を知ることができた。
- ・生徒の現状をデータで示して説明してくれてとても参考になった。セカンドインパクト症候群は初めて知った。とても勉強になり注意したい。
- ・メディカル講習会の際は選手一同お世話になりました。当日は運動器のチェックと共に講習も行われて選手は充実した様子でした。私自身が、高校指導の現場に入って1年になりました。顧問の責任として事故防止が重要な役割なので危険性が高い脳震盪について学ぶ機会ができて有意義でした。
- ・生徒のために今後体のために良いと思うことは県全体で取り組んでいてもらいたいと思います。
- ・今後もメディカルサポートチームと協力関係を維持しながら選手の故障予防やケアをしていってほしいと思います。

7) 情報交換会について

- ・2年ぶりの参加だったがとても楽しく有意義な時間でした。
- ・毎回有意義な時間を作ることができていると思いますが、若手の参加がもっと増えると良いと思います。
- ・中学校の先生方や他の支部の先生方と情報交換ができ、有意義な時間となりました。
- ・各地区の先生方と学校のチームの現状や生徒の様子を聞くことができて良かった。

- ・今年も新たな気付きを得ることができました。
- ・年々参加する方が減ってきたおり、さびしい感じがします。

8) 県高野連強化部事業について

- ・いつも企画・運営有難うございます。来年度の選手技術講習会の実施時期（日程）の予定がわかっていたら早めに教えて頂ければ助かります。
- ・強化部をはじめ企画・運営にご尽力されている先生方には大変感謝申し上げます。いつも充実した内容と有意義な研修の場となっています。
- ・効果的な取り組みがなされていると思います。
- ・今回の講習をDVDにして各校に配るということが可能なら是非お願いしたいと思います。（講師の方によっては許可しないと思いますが）
- ・今回、派遣事業により2月に福井県に行ってまいります。この機会を設けて頂きありがとうございます。有意義なものにして参ります。派遣事業はもとより、野球におけるトップレベルや高校野球の次のステップ（大学・社会人・プロ）触れ合いの機会（指導者だけでなく選手主体のもの）が更に増えていくと選手のモチベーションに生きると思います。
- ・派遣事業にもう一度参加したいです。
- ・今後も私たちの成長のためにこういった場所を作っていただき、多種目の話を聞けることをお願い致します。

平成 28 年度指導者講習会アンケート（中学校）

1) 講演「野球と思うな、人生と思え」原田教育研究所（原田 隆史 氏）

- ・ぶれない指導法、メソッドが勉強になり、さまざまな教育活動に活かしていきたい。
- ・部活動とともに、生徒指導に関する事が学べた。
- ・目的と目標それぞれを設定する大切さを改めて感じた。良い選手を育てるために、という意識をもって指導にあたりたい。
- ・目標シートや日誌の記入など活用できる指導方法を学ぶことができた。
- ・生徒のパフォーマンスを発揮させる手法が、システム化されており、どの年代の子どもにも実戦が可能で、素晴らしい講演だった。
- ・「心のコップを上に向ける」生徒のコップを上向きにするための生徒指導を実践していきたい。

2) 講演「夢が自分を育てる」（小野 巧 氏）

- ・「いつも通り」の弊害はまさに実感しているところでした。
- ・小野先生の教え子で、昔のことを思い出しながら講演を聴いていた。ぜひ、生徒に還元していきたい。
- ・名門校を 17 年率いてきた言葉には大変重みがあり、「伝える」ことの大切さを学んだ。
- ・一流の指導者には共通して、メンタルトレーニングを重視していることが分かった。
- ・「最後まで思い続ける者が成功する。」そうなりたいと生徒に考えさせることが重要である事を学んだ。
- ・他県からみた福島県という話も大変参考になった。

3) 講演「選球眼を鍛える」（石垣 尚男 氏）

- ・指導者の視点を変えることができた。
- ・視力とパフォーマンスの関係をわかりやすく伝えていただいた。
- ・さっそく部員の視力確認とトレーニングを取り入れていきたい。
- ・試合での「よく見て」という根性論的指導になっていたことに気づくことができ、選手の見る力の向上にも力を注いでいきたい。
- ・見る力の大切さを学ぶことができた。
- ・打つ前を見る。見ているから打てる。ヒットを打つ以外にも、ストライク、ボールの見極めが重要であることを認識できた。
- ・目のトレーニングをすると疲労感を感じることから、普段使っていない筋肉であるということ理解したとともに、大切さも知ることができた。

4) 甲子園塾報告 (小野高校野球部監督 皆川 俊哉 先生)

- ・今後の高校野球指導の在り方について、現状が分かった。
- ・全国先生方が集まり、意見交換できる場はとても良い企画だと思う。
- ・高校での指導内容が多岐にわたることが分かった。
- ・指導経験が浅いため、共感できる事が多かった。
- ・若手の先生方には貴重な機会になると思った。

5) 甲子園出場報告 (聖光学院高校野球部監督 齊藤 智也 先生)

- ・甲子園大会のエピソードを聴くことができて良かった。
- ・攻守交代のスピードはしっかりと指導していきたい。
- ・連続出場をしても決して気を緩めることなく、スキのないチーム作りがうかがえた。
- ・ルールは守るもので、ルールや規則の重要性を重く感じる事ができた。
- ・野球の技術以外にもやらなくてはならないことが数多くあることを学んだ。

6) メディカルサポートチーム活動報告 (今野 裕樹 氏)

- ・脳しんとうについて、指導者の知識が必要であると再確認した。
- ・子どもたちの怪我、異常申し出について、軽視できないということを改めて感じる事ができた。
- ・頭部外傷は最大限の注意を払う必要があることを知った。
- ・セカンドインパクト症候群については知らなかったなので、勉強にあった。
- ・各球場でもポケット脳しんとうツールを配備すべきであると考えた。

7) 情報交換会について

- ・高校の先生方が連携・協力して指導にあたられている様子がよく分かった。
- ・中高の連携をより図るための方法を考えていきたい。
- ・中高連絡を踏まえて、野球人を育てていくためにどのようなことを指導していくべきかや高校でお世話になっている生徒の現状などを情報交換することができてよかった。

8) 県高野連強化部事業 (生徒技術講習会・派遣事業・指導者講習会・書籍リレー等) について

- ・指導者講習会に初めて参加したが、有意義な時間だった。来年度もぜひ参加したい。
- ・今後も中高連携と指導力、競技力向上に努めていきたい。

平成 28 年度指導者講習会アンケート（軟式部）

1) 講演「野球と思うな、人生と思え」原田教育研究所（原田 隆史 氏）

- ・独特な話し方で、90分という時間を感じさせない講義であった。
- ・「心のコップを上向きにする」という言葉がとても印象的で、学校教育全体に通用する素晴らしい内容で、少しでも実践していきたい。
- ・「日本一を作る技術がある」という講演に吸い込まれた。
- ・原田先生のように熱意を継続しながら生徒たちと向き合っていきたい。

2) 講演「夢が自分を育てる」（小野 巧 氏）

- ・どのように学び、それを理論化し、生徒に伝え、チーム作りをして戦ったのか、とてもわかりやすい講演であった。教育委員会に行かれた後の県のレベルアップに向けた事業やアイデアがとても参考になった。
- ・小野先生の謙虚な姿勢から、懐の深さを感じることができた。
- ・数式表示というわかりやすい表現が指導において効果的であると感じた。

3) 講演「選球眼を鍛える」（石垣 尚男 氏）

- ・選手の目というところにはあまり着目していなかったので大変勉強になった。
- ・すぐにでもできるような目のトレーニングを紹介してもらったので、継続して実践していきたい。

4) 甲子園塾報告（小野高校野球部監督 皆川 俊哉 先生）

- ・資料だけでも貴重な内容、文章が書かれており、参考にしたいこともあった。

5) 甲子園出場報告（聖光学院高校野球部監督 齊藤 智也 先生）

- ・攻守交代のスピーディーさ、原点に戻ることの大切さを学んだ。
- ・甲子園に行っても応援されるチーム作り、生徒指導を日頃から行っていきたい。

6) メディカルサポートチーム活動報告（今野 裕樹 氏）

- ・脳しんとうにかかわる事例や症状、処置など勉強になった。
- ・サッカーやラグビーなどで脳しんとうに対する処置が先進的に導入されているということで教員自身も勉強していかなくてはならないと考えた。

7) 情報交換会について

8) 県高野連強化部事業（生徒技術講習会・派遣事業・指導者講習会・書籍リレー等）について

- ・毎年年度末に開催していただいている指導者講習会は勉強になり、野球単体のことだけでなく、多種目、企業といった学校教育全体に通ずる講演があるため今後も積極的に参加していきたい。